

巻 頭 言

長崎短期大学 学長

安部 恵美子

中央教育審議会の学士課程教育の構築をはじめ、現在、わが国の高等教育のグランドデザインが果敢に議論されています。短期大学には、21世紀の「知識基盤社会」「生涯にわたる循環型学習社会」実現に資する、地域に密着した高等教育機関としての役割を果たす責任があります。そのためには、短期大学教育の内容をより向上・充実させて、教育の質を担保しなければなりません。

短期大学の教員の日常は、その教育課程の特性や学生の資質を反映して、授業運営や学生指導等の「教育」活動にウエイトが置かれがちです。そのため、教員自らの専門領域に関する「研究」活動を、忙しい授業や学務の中で継続していくことが年々困難になっているのが実感です。

しかしながら、高等教育機関である短期大学では、学び続ける主体としてのモデルを教員が示すことが、学生の自ら学ぶ姿勢の確立を促すものと捉える視点が必要です。いつの時代も大学は、学生と教員が相互に学びあう場なのです。

また、短期大学教育の充実のためには、活発な研究の成果を、学生、同僚教員、関連分野の研究者集団、さらには、地域のステークホルダーに広く公開し、関係者からの指導や批評を真摯に受け止めることも必要です。それは、高等教育に携わる者としての使命であると思います。

今回とりまとめた、本研究紀要に掲載されたどの論文にも、執筆担当教員の研究に対する篤い思いが込められているように感じます。18年度から実施した「研究費傾斜配分制度」により展開された研究活動も報告され、アカデミックな研究のみならず、短大の教育活動の中で積み上げられてきた、実践研究の成果も報告されています。

各教員が、ここに積み上げた研究業績に対し学長として敬意を表すると共に、その研究の成果が学生の教育に還元されることを心から期待します。

最後になりましたが、なかなかかどらぬ原稿の集約状況に心を砕きながら、編集作業に携わっていただいた紀要編集委員諸氏のご尽力に感謝申し上げます。

平成21年3月

学長 安部恵美子